

研究課題名	子宮癌肉腫, 子宮平滑筋肉腫, 子宮内膜間質肉腫の術前診断についての検討
研究の意義・目的	子宮体部の筋層内に発生する『がん』である子宮肉腫は、通常の生検では診断に必要な組織の採取が行いにくいいため、術前に診断することが困難なことが多いとされています。子宮肉腫の代表的な疾患である子宮癌肉腫、子宮平滑筋肉腫および子宮内膜間質肉腫を対象として、それらに対する術前生検の有用性を評価することが本研究の目的です。生検診断が困難であることから、子宮肉腫の術前診断は現在 MRI 画像所見をもとに行われます。しかしながら子宮肉腫の MRI 画像と、内部に変性を伴う良性の子宮筋腫の MRI 画像は類似しており、両者の鑑別は困難です。子宮平滑筋肉腫肉腫の診断に関しては、深部から組織採取を行うことができる針生検を行うことで術前診断の精度が向上することをわれわれはすでに報告をしています。今回、平滑筋肉腫を含む子宮肉腫に対し、針生検と通常の生検の結果を組み合わせることにより、子宮肉腫の術前診断を行うことができるのではないかと考え本研究を実施することとしました。子宮肉腫に対する術前生検診断の有用性を評価することで適切な術前検査の方法を確立することにより、子宮肉腫の予後が改善することが期待されます。
研究を行う期間	「機関の長の実施の許可日」 ~ 2023年7月31日
研究協力をお願いしたい方(対象者)	2011年4月から2021年9月の間に、大阪公立大学医学部附属病院女性診療科で子宮内膜生検あるいは子宮腫瘍針生検による組織検査を受けられ、その後子宮摘出術を受けられた子宮癌肉腫、子宮平滑筋肉腫および子宮内膜間質肉腫の方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。  診療情報等：【年齢、性別、診断名、疾患の術後進行期分類、生検組織診断結果、手術摘出標本組織診断結果】
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪公立大学医学部附属病院女性診療科のみで行い、他の機関に情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪公立大学医学部附属病院女性診療科のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪公立大学大学院医学研究科 女性病態医学 研究責任者 市村友季
本研究の利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学大学院医学研究科 女性病態医学 (担当者氏名) 市村 友季 電話番号：(06) 6645-3862 メールアドレス：gr-med-obandg@omu.ac.jp